

企業の社会貢献

トヨタ紡織株式会社

平成21年10月3日（土）、トヨタ紡織株式会社関東ブロック職長会・班長会合同で野菊寮でのボランティア活動を行っていただきました。職長会でのボランティア活動は今回を含めて5回目になり、班長会と合同での活動は3回目になるそうです。また、野菊寮でボランティアをしていただくのは、3回目になります。

ボランティア当日の朝の天候は大雨が降っていましたが、ボランティアが始まる頃には小雨になり時々晴れ間も見え、みなさん汗を流しながら活動を行っていました。

今回も昨年同様、御殿場市中畑にある社会福祉法人『野菊寮』にて、施設内道路の整備・建物の窓拭き・非常階段の清掃・草むしりをしていただきました。今回の活動は、組合の定期大会と重なってしまい数名不参加となったとのことですが、職長会から12名、班長会からは18名、また、愛知県からの参加者もあり計31名となり、大変多くの方に参加をいただきました。

「今後も、このような活動を恒例行事として定着させていきたいと考えています。」と今回中心になって計画を立てていただいた西村さんは語っており、トヨタ紡織の活動は企業の社会貢献



活動として、これからもますますの活躍が期待されます。

今回ボランティアとして参加いただいた皆様、ありがとうございました。

社会福祉協議会では、ボランティアに関する相談を随時受付けています。

個人、団体、企業に係わらず、興味のある方はお気軽に相談下さい。

電話 70-6801



障がい者ってなんだ？

～「障がい者」という言葉の使い方～

私は、どう考えても「障害者」という言葉の使い方は違うと思う。

御殿場市社会福祉協議会では、障がい者、国や法律では障害者。自分がいつ障がい者になるかもしれないなかで、いつまでこの言葉を使い続けるのか。

ただ、車椅子に乗っているだけで、目が見えないだけで、話せないだけで、たったそれだけのことで、なぜ「害」という文字を使って分別するのだろうか。

健常者にとって、障がい者は害なのだろうか。障害者は、みんなに迷惑をかけているのだろうか。

誰だって誰かの手を借りて生きている。障がいを持っていようと無かるうと、そこに違いはないはず。

「害」を生み出しているのは、人の心なのではないか。私は、ずっと障がい者という言葉が嫌いだっただ。

ある研修会で、「障がい者」を「チャレンジド」と呼ぶ事を知った。まだまだ、知らない方もいるだろうし、障がい者という言葉が定着している。今更、チャレンジドと言われるのもと思う方もいるだろう。

だけど、もし自分がチャレンジドになったらと考えたり、家族がそうになったら考えると、長い間にマイナスの意味を備えた「障がい者」という言葉は使いたくない。

私は、チャレンジドという言葉を使い、広めていきたい。

今回は、社協にいただいた意見を掲載いたしました。福祉に関する意見、社協だよりについての感想等がありましたらお寄せ下さい。今後の編集の参考にいたします。

〒412-0042 御殿場市萩原988-1

御殿場市社会福祉協議会